

特集

本年15回目を迎える田んぼアート

田んぼアート実行委員会の皆さまに聴きました

田んぼアートで

「地域農業の振興と活性化を図り観光の1つの要素」としたい

〈田んぼアートを始めたきっかけや動機は？〉

・田んぼアートは、田んぼを巨大なキャンバスに見立て、色の異なる稲（古代米の早生7種類程度）を使って、巨大な絵や文字を作り出すプロジェクトです。1993年に青森県南津軽郡田舎館村の村おこし（地域



田んぼアート 観賞用展望やぐら

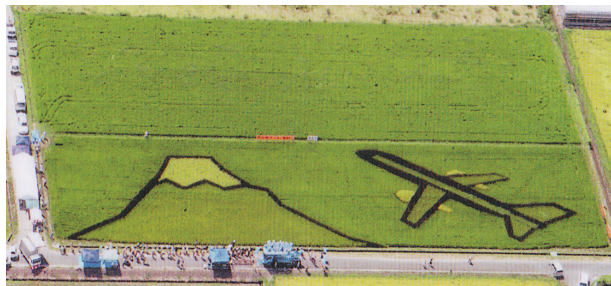
活性化事業の1つ）として田んぼアートが始まりました。この活動に共鳴を受けた稲荷部の池田正さんが起こした「いなかんべ村」で知人やJA婦人部、観光協会などから有志を募り、取り組んだことが、菊川市の田んぼアートの始まりです。本年度15回目を数えています。2010年以降になると田んぼアートは全国に広まり、全国田んぼアートサミットが毎年開催されるようになりました。

〈実行委員会はどのような組織ですか？〉

・実行委員会会長である池田さんを筆頭に、地元有志約10名と菊川市観光協会、協賛団体としてJA遠州夢咲菊川中央支店や菊川営農経済センター、JA夢咲内田営農教室など約30名で組織しています。誰でも会員になれますので、多くの方に参加していただけるように広く募集しています。現在は、15周年の記念誌の発刊に向け、作成や編集作業に取り組んでいます。

〈記念誌の発刊は？〉

・実行委員会設立の経緯や地域活性化を目指した活動の歴史、市政15周年に合わせて開催した「全国田んぼアートサミットin菊川」などを紹介することにより、菊川市の観光資源として成長を遂げた15年間の活動の軌跡を多くの方に知っていただき、地域農業の活性化を目指すとともに、田んぼアート鑑賞者やイベント参加者の拡大に繋がってきたいです。



2008年「富士山と飛行機」初回に作成した田んぼアート

市民と議会をつなぐ特集ページです。今回は、田んぼを巨大なキャンパスに見立て、色の異なる稲を使い巨大な絵や文字を作り出す田んぼアートに対する想いを実行委員会の皆さまに聴きました。